

三の丸地区における空間のあり方に関する研究 ～名古屋城の眺望に着目して～

名古屋都市センター 調査課 中野 優

1 はじめに

1-1 調査研究の背景・目的

名古屋市の都心部に位置する三の丸地区（図1）は、名古屋開府（1610年）以来、清州越による上級武士の武家屋敷地として始まり、その後、陸軍用地を経て、現在は霞が関に次ぐ規模の緑豊かな官庁街が形成されている。しかし、現在の三の丸地区は、北側の名古屋城を中心とした名城地区と南側の久屋大通公園をはじめとした栄地区とを分断しており、にぎわいの連続性が絶たれている。また、三の丸地区内の建物の多くは築50年が経過しており、今後、老朽化に伴う建物の建替えや機能更新が進められていくことが予想され、さらに、学識者や



図1 三の丸地区（太枠は三の丸一丁目から四丁目を示す）

財界などから三の丸地区再整備に向けた提言¹⁾²⁾がなされるなど、まちづくりの機運が高まっている。

このような機会を捉えて、新たなまちづくりを進めていくことが必要であり、その際の1つの視点として、名古屋城の眺望を重視した空間の形成が重要であると考え。名古屋城は1610年から築城が始まり、築城にあわせて城下町が形成され、「尾張名古屋は城で持つ」^{注(1)}と言われていたように、名古屋城は近世のまちづくりの起源であったといえる。その後、戦災により名古屋城は焼失したものの、再建を願う市民の声も多くあり、1959（昭和34）年に天守閣が鉄骨鉄筋コンクリート造で再建され、その後、本丸御殿の再建や天守閣の木造化に向けた検討など、名古屋のシンボル・観光スポットとして役割を果たしている。名古屋にとって重要な役割を担っている名古屋城であるが、これまで名古屋城の眺望とまちづくりに関する調査研究は、名古屋市広告・景観審議会において、名古屋城眺望景観保全のための景観形成基準策定のためになされた調査研究を除き、管見の限り行われていない。その理由の一つとして、眺望や景観などとまちづくりを考える際には、立体的にイメージをしながら検討することが有効であると考え、これまではそのような検討を容易にすることができなかったからではないかと考えられる。

しかし、近年は国が3D都市モデル^{注(2)}のオープンデータ化を進めるなど、誰でも3Dのデータを取得できるようになってきている。3D都市モデルは、空間を立体的に認識することができ、容易に条件や視点を変えることができるため、眺望や景観などとまちづくりを検討するのに適したツールであると考え。

そこで、本調査研究では、三の丸地区の新たなまちづくりを見据え、名古屋城の眺望に着目して、3D都市モデルを活用した意見収集を行うことで、三の丸地区における空間のあり方について提案することを目的とした。

1-2 調査研究の進め方

最初に、現状の名古屋城の眺望に関して、既存のルールや現地調査により把握したうえで、三の丸地区の空間を検討するうえで大切にすべき要素について、学識者や行政関係者などから意見をいただきながら整理をした。次に、それらを踏まえて 3D 都市モデルを作成し、意見収集を行った。最後に、意見収集の結果から、三の丸地区における空間のあり方について検討を行った。

2 名古屋城の眺望と三の丸地区の空間

2-1 現状の名古屋城の眺望の把握

(1) 名古屋城眺望景観保全

名古屋城眺望景観保全は、名古屋城周辺の市街化が進展し、高層建物の建設等により眺望景観が阻害される懸念が増してきている背景から、名古屋城の眺望景観を保全するために、2018(平成 30)年に名古屋市景観計画に位置付けられた。ここでは、計画の中で特に今回の調査研究に関係の深い、名古屋城天守閣の展望室を眺望点としたパノラマ景観と、テレビ塔スカイデッキ^{注(3)}を眺望点とした見通し景観について整理する。

○パノラマ景観（眺望点：名古屋城天守閣の展望室）

名古屋城天守閣の展望室から街並みを見る場合、建築物等の高さによっては、市街地の眺望が阻害される可能性があることから、大規模建築物等（高さ 31m 超の建築物や延べ面積 10,000 m²（店舗等の集客施設の場合は 3,000 m²）超の建築物など）の高さを制限している。三の丸地区においては、かつて尾張徳川家重臣の屋敷が建ち並んでいたエリアであり、「城の高さを超えないこと」という不文律が存在してきたとも言われることから、天守閣の高さ（標高 62m・地上約 49m）を超えないこととしている（図 2）。



図2 名古屋城眺望景観保全における三の丸地区の高さ制限

（出典：名古屋市景観計画より筆者加筆）

○見通し景観（眺望点：テレビ塔スカイデッキ）

テレビ塔は日本初の集約電波鉄塔として 1954（昭和 29）年に完成し、2022（令和 4）年に国の重要文化財に指定されるなど歴史的価値が高く、公共的な視点場として重要な施設である。テレビ塔のスカイデッキからは、名古屋の市街地をはじめ名古屋城天守閣を望むことができ（図 3）、2 つのシンボルをつなぐ眺望は、名古屋らしさを感じさせるものとして価値がある。一方、この眺望を守るためには建築物の高さを一定程度抑える必要があり、制限を受ける地権者の理解と市民又は来訪者の景観への意識醸成が不可欠である。このような経緯から、テレビ塔から名古屋城への見通し景観の重要性について市民又は来訪者の意識を高めていくとともに、建築等の計画の早い段階から協議を働きかけ、地権者の理解を得ながら眺望確保に努めることを景観計画に記述している（図 4）。



図3 テレビ塔スカイデッキから名古屋城天守閣への眺望

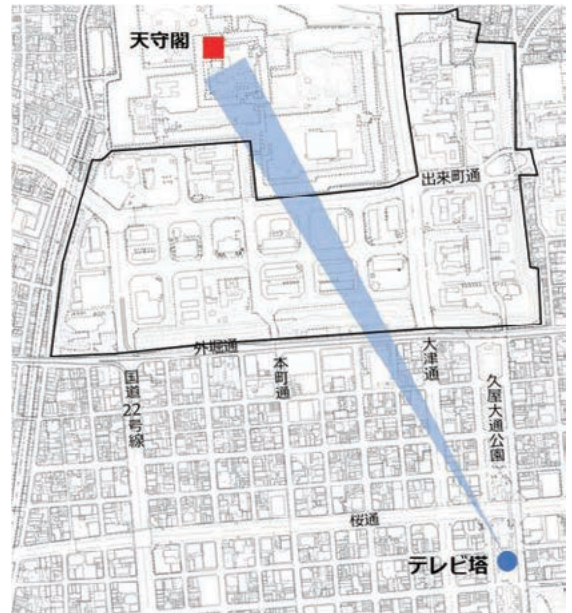


図4 見通し景観保全のために協議を働きかけていく地域（名古屋市景観計画より筆者加筆）

（2）現状の名古屋城天守閣への眺望

現状の名古屋城天守閣への眺望として、三の丸地区内のグランドレベルおよび建物上層部からの見え方について、現地調査を行った（2023年9月20日）。現地調査を行った視点場を図5、その視点場から名古屋城天守閣を見た写真を図6、7に示す。

三の丸地区内のグランドレベルからは、街路樹や石垣上の樹木等の影響で基本的に名古屋城天守閣を見ることができない。本町通の北端（視点場③）や名古屋城正門前（視点場④）、名古屋城駅出入口前（視点場⑦）のように名古屋城に近づいた位置からでも見えないため、三の丸地区からはあまり名古屋城を感じることができない。

三の丸地区内の建物上層部（視点場①、②、③）からは、天守閣への距離が近いため、大きく見えて迫力がある。しかし、三の丸地区内の建物上層部の多くは、執務室や喫煙所等として利用されているため、一般の人が立ち寄って天守閣を見ることは難しい。名古屋駅付近の建物上層部（視点場④）からは、距離が遠いため天守閣が小さい印象であったが、緑に囲まれたような天守閣を見ることができ、名古屋の象徴的な空間であると感じた。



図5 現地調査を行った視点場



図6 三の丸地区内のグランドレベルから名古屋城天守閣への眺望



図7 建物上層部から名古屋城天守閣への眺望

2-2 三の丸地区の空間を検討するうえで大切にすべき要素

前節の現状の名古屋城の眺望を踏まえて、三の丸地区の空間を検討するうえで大切にすべき要素について、新たなスカイライン（スカイラインとは、都市の建築物群が連続して街並みの輪郭を形成する空との境界線をいう。）の形成と、グランドレベルから名古屋城天守閣への眺望に分けて整理をした。なお、整理にあたっては、学識者や行政関係者等からも意見をいただいた。

（１）新たなスカイラインの形成

三の丸地区は今後新たなまちづくりを進めていくことが期待されており、本調査研究においては、新たなまちづくりとして、現在の官庁機能に加えて新たな機能を三の丸地区に導入することで新たな価値（例：にぎわいの形成、歴史・文化の発信、交流の場、防災力の強化など）を生み出すエリアに再生することを前提として考えた。その際に、現在の官庁機能を維持したまま新たな機能を導入するように建物群を建替えるには、現在のルール（名古屋城眺望景観保全、都市計画等）を見直す必要がある。ここでは、その中でも名古屋城眺望景観保全で建築物の高さを一律（標高 62m・地上約 49m）に制限している点に着目して検討を行った。

新たなスカイラインの形成について、三の丸地区の空間を検討するうえで大切にすべき要素として、以下のように整理した。

- 名古屋城天守閣の展望室から三の丸地区の方面を見たときに、圧迫感がない（開放感がある）ようにすることが大切
- 三の丸地区は整然とした街区割であるため、統一感のある空間づくりが大切
- テレビ塔スカイデッキから名古屋城天守閣への眺望は、ただ見えればよいのではなく、名古屋城の存在感が高まるような見せ方をすることが大切
- 三の丸地区の再整備にあたっては、地区の建物を建物群として見たときに、周辺エリアから認知されたり魅力的に感じられるような特徴的・象徴的な空間づくりが大切

（２）グランドレベルから名古屋城天守閣への眺望

前節で現地調査をしたように、三の丸地区内のグランドレベルからは、樹木等の影響で基本的に名古屋城天守閣を見ることができない。三の丸地区内のグランドレベルから名古屋城天守閣への眺望について、三の丸地区の空間を検討するうえで大切にすべき要素として、以下のように整理した。

- 名古屋城天守閣が見えることで、新たな付加価値が生み出され、三の丸地区のブランド力の向上等に繋がるため、見えるようにすることが大切
ただ、三の丸地区と名古屋城で地上高があまり変わらない^{注(4)}ため、あらゆる場所から見えるようにするのではなく、視点場を特定して名古屋城天守閣が眺望できるようにするべきである

3 3D 都市モデルの作成

前章で整理した大切にすべき要素を踏まえて、意見収集で使用する 3D 都市モデルを作成した。モデルの作成にあたっては、建物のデータを国土交通省の PLATEAU、道路のデータを株式会社日建設計が所有しているデータを使用した。それらのデータをもとに、3D モデリングのソフト Sketch Up を使用して 3D 都市モデルの作成を行った。

(1) 新たなスカイラインの形成

新たなスカイラインの形成として、スカイラインの形状が異なるモデルと、スカイラインの形状が同じで建物高さが異なるモデルを作成した。今回、モデルを作成した建物を図 8、モデルの作成にあたっての条件を表 1 に示す。なお、名古屋城天守閣の展望室とテレビ塔スカイデッキを視点場として設定した。



図 8 モデルを作成した建物

表 1 モデルの作成にあたっての条件

- ・名古屋城天守閣とテレビ塔が見通せるように建物を配置する
 - ・建物の形状は 50m×50m（縦×横）の直方体の建物とする※
 - ・建物は街区の中央に配置する※
 - ・建物の高さのみを変数とする
- ※名古屋城天守閣とテレビ塔の見通しにかかる建物は除く

○スカイラインの形状が異なるケース

スカイラインの形状が異なる 3 つのケース（表 2）を作成した。ケース①は、現在のルールと同じように一律に高さを揃える水平のスカイラインとした。ケース②は、名古屋城天守閣の正面にあたる本町通沿いの建物を一番低くした谷型のスカイラインとした。ケース③は、ケース②の逆で本町通沿いの建物を一番高くした山型のスカイラインとした。建物高さは、現状の名古屋城眺望景観保全のルール（標高 62m・地上約 49m）を見直すことを前提としたため、ケース①は一律 70m、ケース②、③は最高高さ 90m、最低高さ 50m としている。名古屋城天守閣の展望室を視点場としたモデルを図 9、テレビ塔スカイデッキを視点場としたモデルを図 10 に示す。なお、今回作成した建物のモデルは茶色で示している（以下同様）。

表 2 作成したケース

ケース	スカイライン
ケース①	水平
ケース②	谷型
ケース③	山型



図9 スカイラインの形状が異なるケースの3D都市モデル（視点場：名古屋城天守閣の展望室）

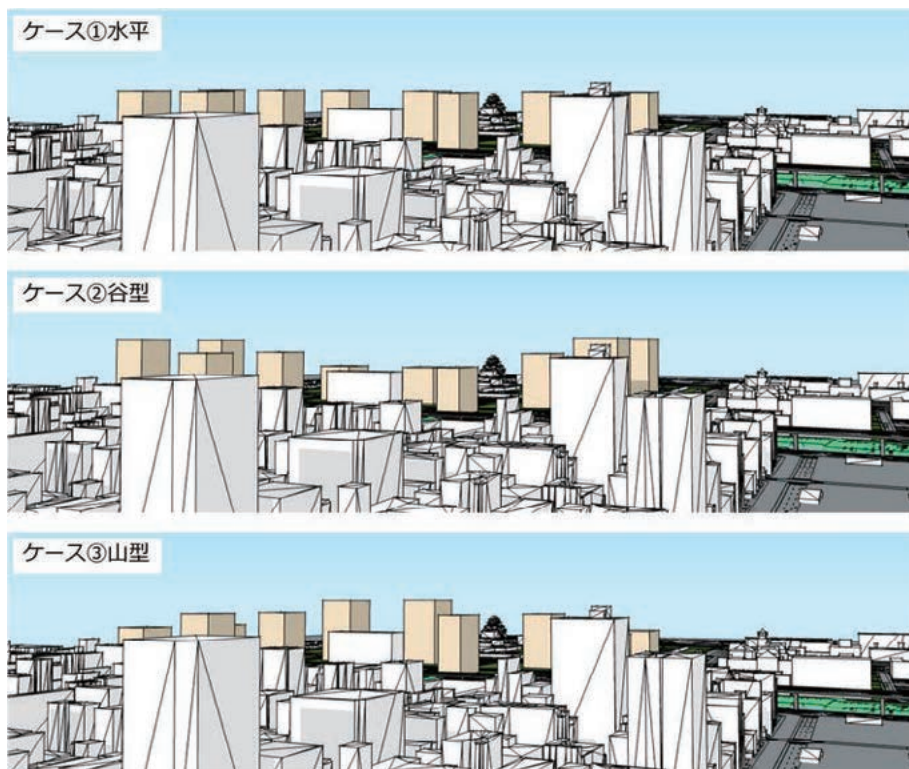


図10 スカイラインの形状が異なるケースの3D都市モデル（視点場：テレビ塔スカイデッキ）

○スカイラインの形状が同じで建物高さが異なるケース

スカイラインの形状を谷型として、建物高さが異なる3つのケース（表3）を作成した。ケース⑤は先ほどのケース②と同様のモデルである。建物の高さ間隔が20mであるケース⑤を基準として、ケース④は建物の高さ間隔を10m、ケース⑥は建物の高さ間隔を30mとした。名古屋城天守閣の展望室を視点場としたモデルを図11、テレビ塔スカイデッキを視点場としたモデルを図12に示す。

表3 作成したケース

ケース	スカイライン
ケース④	谷型－低
ケース⑤ (ケース②と同様)	谷型－中
ケース⑥	谷型－高



図11 スカイラインの形状が同じで建物高さが異なるケースの3D都市モデル（視点場：名古屋城天守閣の展望室）

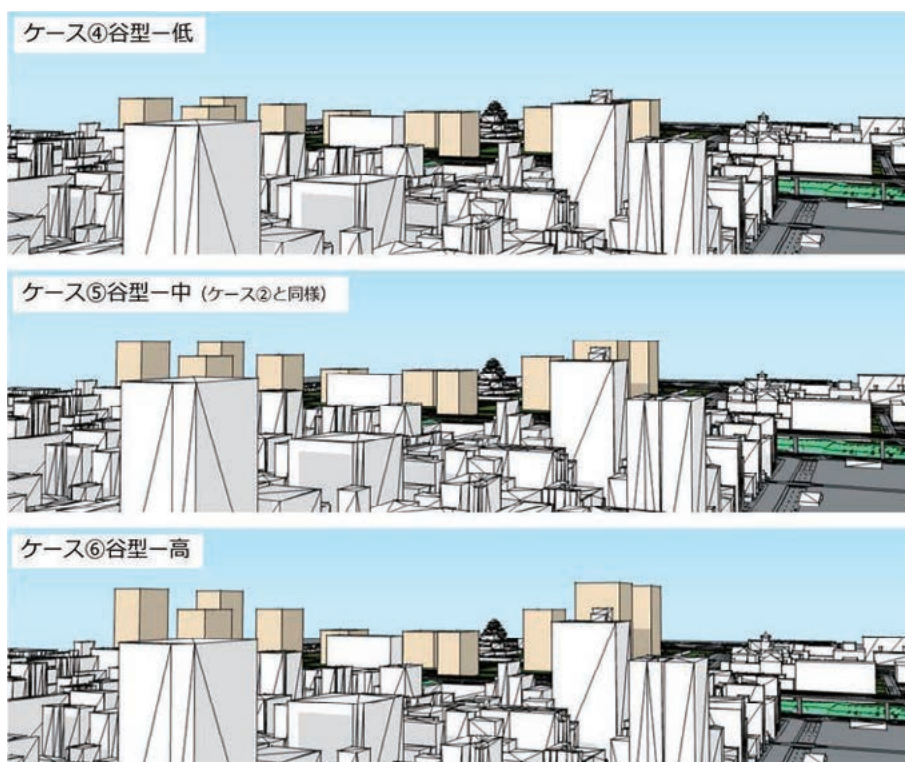


図12 スカイラインの形状が同じで建物高さが異なるケースの3D都市モデル（視点場：テレビ塔スカイデッキ）

(2) グランドレベルから名古屋城天守閣への眺望

三の丸地区内のグランドレベルから名古屋城天守閣への眺望のモデルとして、3つの視点場（図13）を設定した。それぞれの視点場から、見え方ⅰとして天守閣がよく見えるケース、見え方ⅱとして天守閣の上部が少し見えるケース、見え方ⅲとして天守閣が見えないケースの9つのモデルを作成した（図14）。樹木については、Google Mapのストリートビューを参考に配置し、ケースごとに名古屋城天守閣への眺望に影響を与える部分の樹木の高さを調節した。なお、現在の愛知県体育館^{注(5)}、水資源機構中部支社、名古屋農林総合庁舎1号館・2号館の建物^{注(6)}については、今後、移転や新たな建物の整備等が計画・想定されているため、モデル上では削除している。



図13 モデルを作成した視点場

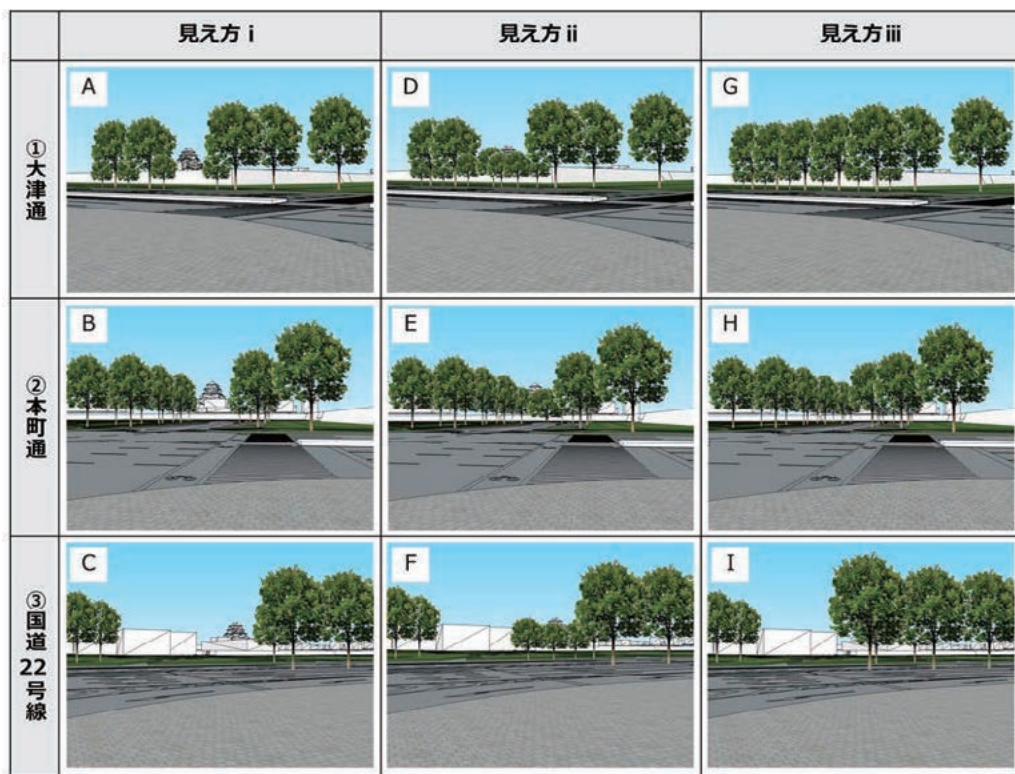


図14 グランドレベルから名古屋城天守閣への眺望の3D都市モデル

4 意見収集

4-1 意見収集の概要

名古屋城の眺望と三の丸地区の空間に関する意見収集を行った（表 4）。意見収集の対象者は、今回の調査では大まかな意見の傾向を把握することを目的としたため、本調査研究等に協力いただいた方を中心とした関係者に限定した。調査項目の新たなスカイラインの形成とグランドレベルから名古屋城天守閣への眺望については、前章の 3D 都市モデルを使用した。

表 4 意見収集の概要

意見収集の方法	Web による意見収集
意見収集の対象者	- 本調査研究等に協力いただいた方から関係者への周知 - 学識者および研究室等 - 行政機関（中部地方整備局、愛知県庁、名古屋市役所） - 中部経済連合会 - 名古屋商工会議所 - UR 都市機構中部支社 - 民間事業者（土木・建築系） - 名古屋まちづくり公社の職員
調査項目	- 属性（性別、年代、職業、居住地、三の丸地区への来訪頻度） - 名古屋市内の好きな景観 - 新たなスカイラインの形成についての意見 - グランドレベルから名古屋城天守閣への眺望についての意見 - 名古屋城天守閣への眺望とシビックプライドとの関係

4-2 意見収集の分析

（1）回答者の属性

回答者の属性を表 5 に示す。今回の意見収集では、対象者を関係者に限定したため、職業では 85%以上の方が公務員で、三の丸地区への来訪頻度は、約 5 割の方が週に 5 日以上と三の丸地区で勤務している方であった。

表 5 回答者の属性

	属性	回答数	割合	n		属性	回答数	割合	n
性別	男性	155	72.8%	213	職業	会社員	28	13.3%	211
	女性	54	25.4%			公務員	182	86.3%	
	その他・回答したくない	4	1.9%			パート・アルバイト	1	0.5%	
年代	20代	18	8.5%	212	来訪頻度	週に5日以上	103	48.4%	213
	30代	60	28.3%			週に数回	7	3.3%	
	40代	63	29.7%			月に数回	55	25.8%	
	50代	45	21.2%			年に数回	47	22.1%	
	60代以上	26	12.3%			行ったことがない	1	0.5%	
居住地	名古屋市内	141	67.5%	209					
	名古屋市外	68	32.5%						

（２）名古屋市内の好きな景観

○好きな景観の選択

名古屋市内の好きな景観として、名古屋まちなみデザインセレクション^{注(7)}に選定されたことのある景観や、三の丸地区内および三の丸地区周辺の景観を選択肢（表 6）とした。選択肢の中から好きな景観について、1 位から 5 位まで選択していただいた。

表 6 好きな景観の選択肢

名古屋駅の高層ビル群 、 テレビ塔と久屋大通公園 、 オアシス 21 、 名古屋市科学館 、 名古屋城天守閣 、 愛知県・名古屋市の本庁舎 、 名古屋国際会議場 、 有松の町並み 、 四間道の町並み 、 白壁・主税・檀木の町並み 、 徳川園 、 東山公園と東山スカイタワー 、 中川運河 、 その他（自由記述）

名古屋市内の好きな景観と属性（年代、居住地、来訪頻度）をクロス集計した結果を表 7 に示す。全体割合として、テレビ塔と久屋大通公園が 85%以上と最も高く、次いで名古屋城天守閣が 65%以上、名古屋駅の高層ビル群が 50%以上であり、名古屋城天守閣が 2 番目に好まれる景観であるという結果となった。その他を選択された方は、名古屋港や納屋橋、大須商店街等の回答があった。

年代とのクロス集計について、名古屋城天守閣は、50 代・60 代以上の方が好んでいる割合が高く、対照的に 20 代・30 代が好んでいる割合が低い傾向があった。一方で、20 代・30 代は四間道や名古屋市科学館を好んでいる割合が高い傾向があった。これは、四間道周辺の円頓寺商店街がリノベーションにより活性化してきたことや、名古屋市科学館に子連れで訪れる機会が多いことなどが要因として考えられる。

次に、居住地とのクロス集計について、名古屋市内と市外で名古屋城天守閣が好きな割合はあまり変わらなかった。これは、名古屋市民にとって名古屋城天守閣が特別な存在であるという思いがそれほど強くなく、一方で、名古屋市外の方には高い割合で名古屋城天守閣が好まれているということがわかる。最後に、来訪頻度とのクロス集計について、三の丸地区で勤務している（週に 5 日以上）からとって、名古屋城天守閣を好んでいる割合が高いわけではないということがわかった。これは、現状の三の丸地区からは、2 章でも整理したようにあまり名古屋城を感じられないというのが要因として考えられる。

表 7 好きな景観の選択と属性とのクロス集計結果

年代	テレビ塔と久屋大通公園	名古屋城 天守閣	名古屋駅 の高層ビル群	オアシス 21	四間道	東山公園 とスカイ タワー	県市 本庁舎	名古屋市 科学館	有松	徳川園	白壁・主 税・櫓木	中川運河	名古屋国 際会議場	その他	n
	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	
	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	
20代	16	11	7	7	9	4	5	6	6	5	5	4	0	0	18
	88.9%	61.1%	38.9%	38.9%	50.0%	22.2%	27.8%	33.3%	33.3%	27.8%	27.8%	22.2%	0.0%	0.0%	
30代	52	34	32	27	26	29	24	19	13	12	10	5	2	6	59
	88.1%	57.6%	54.2%	45.8%	44.1%	49.2%	40.7%	32.2%	22.0%	20.3%	16.9%	8.5%	3.4%	10.2%	
40代	53	41	41	31	22	20	24	16	8	16	11	7	7	10	63
	84.1%	65.1%	65.1%	49.2%	34.9%	31.7%	38.1%	25.4%	12.7%	25.4%	17.5%	11.1%	11.1%	15.9%	
50代	38	33	19	23	10	14	13	9	11	11	11	6	1	13	44
	86.4%	75.0%	43.2%	52.3%	22.7%	31.8%	29.5%	20.5%	25.0%	25.0%	25.0%	13.6%	2.3%	29.5%	
60代以上	21	20	14	7	9	7	9	3	13	2	6	8	1	4	26
	80.8%	76.9%	53.8%	26.9%	34.6%	26.9%	34.6%	11.5%	50.0%	7.7%	23.1%	30.8%	3.8%	15.4%	
回答数計	180	139	113	95	76	74	75	53	51	46	43	30	11	33	n=210
全体割合	85.7%	66.2%	53.8%	45.2%	36.2%	35.2%	35.7%	25.2%	24.3%	21.9%	20.5%	14.3%	5.2%	15.7%	

居住地	テレビ塔と久屋大通公園	名古屋城 天守閣	名古屋駅 の高層ビル群	オアシス 21	四間道	東山公園 とスカイ タワー	県市 本庁舎	名古屋市 科学館	有松	徳川園	白壁・主 税・櫓木	中川運河	名古屋国 際会議場	その他	n
	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	
	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	
名古屋市内	123	90	72	63	51	51	52	37	34	28	32	15	5	24	140
	87.9%	64.3%	51.4%	45.0%	36.4%	36.4%	37.1%	26.4%	24.3%	20.0%	22.9%	10.7%	3.6%	17.1%	
名古屋市外	56	46	41	30	24	24	22	15	17	17	9	13	6	9	67
	83.6%	68.7%	61.2%	44.8%	35.8%	35.8%	32.8%	22.4%	25.4%	25.4%	13.4%	19.4%	9.0%	13.4%	
回答数計	179	136	113	93	75	75	74	52	51	45	41	28	11	33	n=207
全体割合	86.5%	65.7%	54.6%	44.9%	36.2%	36.2%	35.7%	25.1%	24.6%	21.7%	19.8%	13.5%	5.3%	15.9%	

来訪頻度	テレビ塔と久屋大通公園	名古屋城 天守閣	名古屋駅 の高層ビル群	オアシス 21	四間道	東山公園 とスカイ タワー	県市 本庁舎	名古屋市 科学館	有松	徳川園	白壁・主 税・櫓木	中川運河	名古屋国 際会議場	その他	n
	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	
	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	
週に5日以上	87	66	53	48	37	41	39	26	20	26	20	10	3	15	101
	86.1%	65.3%	52.5%	47.5%	36.6%	40.6%	38.6%	25.7%	19.8%	25.7%	19.8%	9.9%	3.0%	14.9%	
週に数回	6	6	3	3	1	3	1	2	1	3	2	0	1	1	7
	85.7%	85.7%	42.9%	42.9%	14.3%	42.9%	14.3%	28.6%	14.3%	42.9%	28.6%	0.0%	14.3%	14.3%	
月に数回	49	37	28	25	22	15	20	13	16	6	13	11	3	9	55
	89.1%	67.3%	50.9%	45.5%	40.0%	27.3%	36.4%	23.6%	29.1%	10.9%	23.6%	20.0%	5.5%	16.4%	
年に数回	40	29	27	20	16	15	14	12	14	12	9	9	3	8	47
	85.1%	61.7%	57.4%	42.6%	34.0%	31.9%	29.8%	25.5%	29.8%	25.5%	19.1%	19.1%	6.4%	17.0%	
行ったことがない	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
回答数計	182	139	112	96	76	75	75	53	51	47	44	30	11	33	n=211
全体割合	86.3%	65.9%	53.1%	45.5%	36.0%	35.5%	35.5%	25.1%	24.2%	22.3%	20.9%	14.2%	5.2%	15.6%	

※全体割合よりも5%以上割合が高いものは濃い塗りつぶし、全体割合よりも5%以上割合が低いものは薄い塗りつぶし（サンプル数10以上）

○好きな景観を日常の中で実感できる機会

前問で選択した好きな景観について、その景観を日常の中で実感できる機会の程度として 5 段階で選択していただいた。単純集計の結果を表 8 に示す。好きな景観ほど日常の中で実感できる機会が多い傾向があった。ただ、名古屋城天守閣については、好きな景観で上位に位置する他の景観と比べると、実感できる機会が多くないことがわかる。この傾向の要因を考察するために、名古屋城天守閣を好きな景観と選択した方の来訪頻度と、日常の中で実感できる機会とでクロス集計を行った（表 9）。三の丸地区で勤務している（週に 5 日以上）方は約 65%の方が実感できる機会が多いと感じているが、年に数回しか来ない方は 70%以上の方が少ないと感じている。これは、三の丸地区に来ない方にとっては、第 2 章で名古屋駅方面や栄方面の建物上層部から名古屋城天守閣を見ることができると整理したが、距離が遠くて見えても小さいため、あまり印象に残らず実感できる機会が少ないと感じているということが考えられる。

表 8 好きな景観を実感できる機会の単純集計結果

好きな景観 n=210	多い		やや多い		どちらともいえない		やや少ない		少ない		回答数計	割合計
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合		
テレビ塔と久屋大通公園	40	22.5%	67	37.6%	32	18.0%	29	16.3%	10	5.6%	178	100.0%
名古屋城天守閣	38	27.9%	23	16.9%	26	19.1%	26	19.1%	23	16.9%	136	100.0%
名古屋駅の高層ビル群	36	32.7%	29	26.4%	23	20.9%	17	15.5%	5	4.5%	110	100.0%
オアシス21	18	18.8%	30	31.3%	21	21.9%	17	17.7%	10	10.4%	96	100.0%
四間道の町並み	8	10.4%	13	16.9%	13	16.9%	23	29.9%	20	26.0%	77	100.0%
東山公園とスカイタワー	8	10.8%	15	20.3%	14	18.9%	16	21.6%	21	28.4%	74	100.0%
県市本庁舎	34	45.3%	11	14.7%	15	20.0%	8	10.7%	7	9.3%	75	100.0%
名古屋市科学館	1	1.9%	6	11.5%	14	26.9%	16	30.8%	15	28.8%	52	100.0%
有松	1	1.9%	6	11.5%	7	13.5%	13	25.0%	25	48.1%	52	100.0%
徳川園	2	4.3%	3	6.4%	11	23.4%	11	23.4%	20	42.6%	47	100.0%
白壁・主税・櫓木	0	0.0%	7	15.9%	7	15.9%	13	29.5%	17	38.6%	44	100.0%
中川運河	3	9.7%	1	3.2%	4	12.9%	13	41.9%	10	32.3%	31	100.0%
名古屋国際会議場	1	10.0%	0	0.0%	2	20.0%	6	60.0%	1	10.0%	10	100.0%

※多い・やや多いで50%以上のものは濃い塗りつぶし、少ない・やや少ないで50%以上のものは薄い塗りつぶし

表 9 名古屋城天守閣を好きな景観と選択した方の来訪頻度と実感できる機会とのクロス集計結果

来訪頻度 n=136	多い		やや多い		どちらともいえない		やや少ない		少ない		回答数計	割合計
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合		
週に5日以上	30	46.2%	12	18.5%	12	18.5%	5	7.7%	6	9.2%	65	100.0%
週に数回	3	50.0%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	2	33.3%	6	100.0%
月に数回	3	8.1%	9	24.3%	9	24.3%	10	27.0%	6	16.2%	37	100.0%
年に数回	2	7.4%	2	7.4%	3	11.1%	11	40.7%	9	33.3%	27	100.0%
行ったことがない	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
回答数計	38	27.9%	23	16.9%	26	19.1%	26	19.1%	23	16.9%	136	100.0%

※多い・やや多いで50%以上のものは濃い塗りつぶし、少ない・やや少ないで50%以上のものは薄い塗りつぶし（サンプル数10以上）

（3）新たなスカイラインの形成についての意見

○スカイラインの形状が異なるケース

スカイラインの形状が異なるケースについて、第2章で整理した大切にすべき要素を踏まえて設問を作成した。名古屋城天守閣の展望室を視点場としたモデルについては、前章で作成した3つのケース（ケース①～③）を見ていただき、「開放感（圧迫感がない、ゆとりがあるなど）」、「統一感（まとまっている、きちんとしているなど）」について、どのように感じるかを5段階で選択していただいた。同様にテレビ塔スカイデッキを視点場としたモデルについては、「名古屋城天守閣の存在感」、「特徴的な建物群（名古屋を代表する景観など）」について、どのように感じるかを5段階で選択していただいた。また、3つのケースについて、一番好みのケースの選択とその理由を自由記述で回答していただいた。

名古屋城天守閣の展望室を視点場とした結果を表10に示す。開放感については、谷型のケースが60%以上の方が開放感がある・ややあると回答し、一方で山型のケースは50%以上の方が開放感がない・あまりないと回答した。統一感については、水平のケースが70%以上の方が統一感がある・ややあると回答し、谷型のケースについても50%程度の方が統一感がある・ややあると回答した。

テレビ塔スカイデッキを視点場とした結果を表11に示す。名古屋城天守閣の存在感については、谷型のケースが60%以上の方が存在感がある・ややあると回答し、一方で水平のケースが50%以上の方、山型のケースが60%以上の方が存在感がない・あまりないと回答した。特徴的な建物群については、すべてのケースにおいて50%以上の方がどちらともいえないと回答した。これは、特徴的という言葉が抽象的で、回答者によって捉え方が変わってしまったことが原因であると考えられる。

表 10 スカイラインの形状が異なるケースの結果（視点場：名古屋城天守閣の展望室）

ケース	開放感										回答数計 (n)	割合計
	ある		ややある		どちらともいえない		あまりない		ない			
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合		
①水平	27	12.7%	40	18.8%	81	38.0%	50	23.5%	15	7.0%	213	100.0%
②谷型	39	18.3%	91	42.7%	42	19.7%	33	15.5%	8	3.8%	213	100.0%
③山型	18	8.5%	32	15.1%	55	25.9%	75	35.4%	32	15.1%	212	100.0%

ケース	統一感										回答数計 (n)	割合計
	ある		ややある		どちらともいえない		あまりない		ない			
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合		
①水平	71	33.3%	87	40.8%	39	18.3%	12	5.6%	4	1.9%	213	100.0%
②谷型	30	14.1%	74	34.7%	65	30.5%	30	14.1%	14	6.6%	213	100.0%
③山型	22	10.4%	51	24.1%	60	28.3%	59	27.8%	20	9.4%	212	100.0%

※ある・ややあるで50%以上のものは濃い塗りつぶし、ない・あまりないで50%以上のものは薄い塗りつぶし

表 11 スカイラインの形状が異なるケースの結果（視点場：テレビ塔スカイデッキ）

ケース	名古屋城天守閣の存在感										回答数計 (n)	割合計
	ある		ややある		どちらともいえない		あまりない		ない			
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合		
①水平	4	1.9%	27	12.7%	71	33.5%	86	40.6%	24	11.3%	212	100.0%
②谷型	37	17.5%	98	46.2%	36	17.0%	32	15.1%	9	4.2%	212	100.0%
③山型	6	2.8%	26	12.3%	49	23.1%	99	46.7%	32	15.1%	212	100.0%

ケース	特徴的な建物群										回答数計 (n)	割合計
	ある		ややある		どちらともいえない		あまりない		ない			
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合		
①水平	8	3.9%	21	10.2%	117	57.1%	39	19.0%	20	9.8%	205	100.0%
②谷型	17	8.3%	41	20.1%	103	50.5%	27	13.2%	16	7.8%	204	100.0%
③山型	7	3.4%	29	14.1%	110	53.7%	39	19.0%	20	9.8%	205	100.0%

※ある・ややあるで50%以上のものは濃い塗りつぶし、ない・あまりないで50%以上のものは薄い塗りつぶし、どちらともいえないで50%以上のものは網掛け

次に、一番好みのケースの結果を表 12 に示す。70%以上の方が谷型のケースを好んでいるという結果となった。谷型のケースを選択した理由として、名古屋城天守閣やテレビ塔が良く見えるや、開放感が感じられる、まとまりがあるように感じる、などの意見が多かった。表 10、11 からわかるように、開放感や統一感、名古屋城天守閣の存在感が感じられる谷型のケースが一番好まれるということがわかった。

表 12 一番好みのケースの結果

ケース	回答数	割合
①水平	40	19.0%
②谷型	148	70.5%
③山型	22	10.5%
回答数計 (n)	210	100.0%

※50%以上のものは塗りつぶし

○スカイラインの形状が同じで建物高さが異なるケース

スカイラインの形状を谷型として、建物高さが異なるケースについて、「ケース⑤谷型一中（ケース②と同様）」と比較して「ケース④谷型一低」、「ケース⑥谷型一高」がどう変わったかを、先ほどの評価指標および景観の良悪について5段階で選択していただいた。あわせて、先ほどと同様に一番好みのケースの選択と、その理由を回答していただいた。

名古屋城天守閣の展望室を視点場とした結果を表 13 に示す。すべての指標において、建物高さが低いケース④谷型一低で肯定的な回答の割合が高く、一方、建物高さが高いケース⑥谷型一高で否定的な回答の割合が高い傾向であった。ただ、変わらないと感じている方も一定の割合があった。

テレビ塔スカイデッキを視点場とした結果を表 14 に示す。傾向は表 13 と同様であったが、表 13 に比べて変わらないと感じている割合が高かった。これは、テレビ塔スカイデッキの視点場は、三の丸地区に対して斜めに位置しており、三の丸地区までの間に複数の建物があるため、名古屋城天守閣の展望室を視点場としたモデルと比べると、建物高さによる影響があまり感じられなかったことが考えられる。

表 13 スカイラインの形状が同じで建物高さが異なるケースの結果（視点場：名古屋城天守閣の展望室）

ケース	開放感										回答数計 (n)	割合計
	高まった		やや高まった		変わらない		やや低くなった		低くなった			
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合		
④谷型－低	37	17.6%	76	36.2%	77	36.7%	14	6.7%	6	2.9%	210	100.0%
⑥谷型－高	15	7.1%	28	13.3%	49	23.2%	79	37.4%	40	19.0%	211	100.0%

ケース	統一感										回答数計 (n)	割合計
	高まった		やや高まった		変わらない		やや低くなった		低くなった			
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合		
④谷型－低	24	11.6%	59	28.5%	98	47.3%	19	9.2%	7	3.4%	207	100.0%
⑥谷型－高	10	4.8%	25	12.0%	98	47.1%	49	23.6%	26	12.5%	208	100.0%

ケース	景観										回答数計 (n)	割合計
	良くなった		やや良くなった		変わらない		やや悪くなった		悪くなった			
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合		
④谷型－低	22	10.6%	71	34.3%	93	44.9%	15	7.2%	6	2.9%	207	100.0%
⑥谷型－高	10	4.8%	29	13.9%	67	32.2%	79	38.0%	23	11.1%	208	100.0%

※ある・ややあるで50%以上のものは濃い塗りつぶし、ない・あまりないで50%以上のものは薄い塗りつぶし

表 14 スカイラインの形状が同じで建物高さが異なるケースの結果（視点場：テレビ塔スカイデッキ）

ケース	名古屋城天守閣の存在感										回答数計 (n)	割合計
	高まった		やや高まった		変わらない		やや低くなった		低くなった			
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合		
④谷型－低	20	9.6%	57	27.3%	112	53.6%	15	7.2%	5	2.4%	209	100.0%
⑥谷型－高	13	6.2%	37	17.6%	96	45.7%	46	21.9%	18	8.6%	210	100.0%

ケース	特徴的な建物群										回答数計 (n)	割合計
	特徴的になった		やや特徴的になった		変わらない		やや一般的になった		一般的になった			
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合		
④谷型－低	8	3.8%	31	14.9%	135	64.9%	28	13.5%	6	2.9%	208	100.0%
⑥谷型－高	13	6.2%	45	21.5%	124	59.3%	20	9.6%	7	3.3%	209	100.0%

ケース	景観										回答数計 (n)	割合計
	良くなった		やや良くなった		変わらない		やや悪くなった		悪くなった			
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合		
④谷型－低	15	7.2%	59	28.4%	123	59.1%	8	3.8%	3	1.4%	208	100.0%
⑥谷型－高	8	3.8%	31	14.8%	101	48.1%	49	23.3%	21	10.0%	210	100.0%

※変わらないで50%以上のものは網掛け

次に、一番好みのケースの結果を表 15 に示す。ケース④谷型－低が一番好まれる割合が高かったが、50%程度の割合であり、多くの方が好んでいるケースとは言えないということがわかった。ケース④谷型－低を選択した理由として、最も開放感があるや、名古屋城天守閣が一番見えるといった意見もあったが、なんとなくという意見もあり、表 15 からわかるように、今回使用したモデルの建物高さ程度であれば、大きく印象は変わらなかったことが考えられる。

表 15 一番好みのケースの結果

ケース	回答数	割合
④谷型－低	99	47.1%
⑤谷型－中	60	28.6%
⑥谷型－高	51	24.3%
回答数計 (n)	210	100.0%

(4) グランドレベルから名古屋城天守閣への眺望についての意見

グランドレベルから名古屋城天守閣への好きな見え方について、見え方 i ～ iii（天守閣がよく見える～見えない）を選択していただき、選択した見え方の中から好きな視点場（大津通、本町通、国道 22 号線）の選択とその理由を回答していただいた。

好きな見え方の結果を表 16、好きな視点場の結果を表 17 に示す。好きな見え方については、95%以上の方がよく見えたほうがよいと回答した。その中で好きな視点場として、80%以上の方が本町通からの視点場が好みであると回答した。本町通を選択した理由として、名古屋城天守閣が大きく目立って見えるや、歴史的に重要な通りである、通りの先に天守閣が見えて綺麗、などの意見が多かった。

表 16 好きな見え方の結果

ケース	回答数	割合
見え方 i（よく見える）	182	95.3%
見え方 ii（少し見える）	6	3.1%
見え方 iii（見えない）	3	1.6%
回答数計（n）	191	100.0%

※50%以上のものは塗りつぶし

表 17 好きな視点場の結果

ケース—視点場	回答数	割合
A（よく見える—大津通）	10	5.2%
B（よく見える—本町通）	160	83.8%
C（よく見える—国道22号線）	12	6.3%
D（少し見える—大津通）	1	0.5%
E（少し見える—本町通）	5	2.6%
F（少し見える—国道22号線）	0	0.0%
G（見えない—大津通）	2	1.0%
H（見えない—本町通）	1	0.5%
I（見えない—国道22号線）	0	0.0%
回答数計（n）	191	100.0%

※50%以上のものは塗りつぶし

(5) 名古屋城への眺望とシビックプライドとの関係

○名古屋城とテレビ塔の眺望

第 2 章で整理したように名古屋市景観計画では、名古屋城とテレビ塔をつなぐ眺望について、名古屋らしさを感じさせるものとして価値があり、その眺望確保に努める旨の記述がされている。三の丸地区の再整備にあたっては、この眺望をどう取り扱うかは非常に大きい要素であり、今回の意見収集でこの眺望がどう思われているのかを把握することを考えた。そこで、名古屋城天守閣とテレビ塔の眺望について、どのように思っているのかを表 18 の選択肢の中から該当するものを選択していただいた。

表 18 名古屋城とテレビ塔の眺望に関する選択肢（複数回答可）

名古屋らしさを感じさせるものとして価値がある 、 名古屋の観光客にとって重要である 、 双方向からハッキリ見えるようにするべき 、 双方向から一部分が見えるようにするべき 、 名古屋城とテレビ塔は距離が遠くて小さくしか見えないので必ず守るべきとは思わない 、 他の視点から見えれば必ず守るべきとは思わない 、 この眺望を守るためには制限を受ける地権者が多数いるのでそこまでして守るべきとは思わない 、 この眺望を守る（景観的価値）よりも都市機能を高度化させて経済的価値を高めるべき 、 その他（自由記述）

名古屋城とテレビ塔の眺望の結果を表 19 に示す。名古屋らしい価値があるや、観光客にとって重要である、ハッキリ見えるようにするべきと、この眺望を肯定的に考えている方の割合が高いことがわかったが、50%前後の割合であり、多くの方が感じている意見とは言えないということがわかった。そのため、この眺望については、守れるのであれば守った方が良く感じている方が多く、絶対にこの眺望を守るべきだというまでのものではないと考えられる。

表 19 名古屋城とテレビ塔の眺望の結果

n=213	回答数	割合
名古屋らしい価値	102	47.9%
観光客にとって重要	109	51.2%
ハッキリ見えるようにするべき	91	42.7%
一部が見えるようにするべき	16	7.5%
距離が遠くて小さい	34	16.0%
他の視点場から見ればよい	39	18.3%
多数の地権者が制限を受ける	24	11.3%
経済的価値を高めるべき	21	9.9%
その他	21	9.9%

※50%以上のものは塗りつぶし

○名古屋城天守閣への好きな視点場

現状、名古屋城天守閣が見える視点場の中で、どこから天守閣を見ることが好きかについて、表 20 の選択肢の中から 3 つ以内で選択していただいた。

表 20 名古屋城天守閣への好きな眺望の選択肢

名古屋駅周辺の高層ビルの上層部	栄地区の高層ビルの上層部	テレビ塔スカイデッキ	三の丸地区内の建物の上層部	名古屋城の水堀沿い	名城公園内	加藤清正像（能楽堂の南側）の周辺	その他（自由記述）
-----------------	--------------	------------	---------------	-----------	-------	------------------	-----------

名古屋城天守閣への好きな眺望と来訪頻度でクロス集計した結果を表 21 に示す。全体割合として、名古屋城の水堀沿いが 50%以上と最も高く、次いで名城公園内が 40%以上、名古屋駅周辺の高層ビルの上層部が 35%以上という結果であった。また、クロス集計の結果から、三の丸地区で勤務している（週に 5 回以上）方は、三の丸地区内の建物の上層部を選択した割合が高く、一方、三の丸地区に年に数回しか来ない方は割合が低いことがわかった。これは、三の丸地区をあまり訪れない方にとっては、三の丸地区内の建物上層部から名古屋城天守閣が望めることを知らない方が多いと考えられる。

表 21 名古屋城天守閣への眺望と来訪頻度とのクロス集計結果

来訪頻度 n=208	名古屋駅の高層ビル	栄地区の高層ビル	テレビ塔スカイデッキ	三の丸地区内の建物	名古屋城の水堀沿い	名城公園内	加藤清正像の周辺	その他	n
	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	回答数	
	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	
週に5回以上	35	18	18	35	55	38	20	6	102
	34.3%	17.6%	17.6%	34.3%	53.9%	37.3%	19.6%	5.9%	
週に数回	6	2	0	2	2	4	1	1	7
	85.7%	28.6%	0.0%	28.6%	28.6%	57.1%	14.3%	14.3%	
月に数回	22	12	8	17	26	20	8	5	55
	40.0%	21.8%	14.5%	30.9%	47.3%	36.4%	14.5%	9.1%	
年に数回	14	6	6	3	25	23	5	2	44
	31.8%	13.6%	13.6%	6.8%	56.8%	52.3%	11.4%	4.5%	
行ったことがない	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
回答数計	77	38	32	57	108	85	34	14	
全体割合	37.0%	18.3%	15.4%	27.4%	51.9%	40.9%	16.3%	6.7%	

※全体割合よりも5%以上割合が高いものは濃い塗りつぶし、全体割合よりも5%以上割合が低いものは薄い塗りつぶし（サンプル数10以上）

○名古屋城への眺望とシビックプライドとの関係

名古屋城への眺望とシビックプライドとの関係について、まず、前問の表 20 で選択していただいた現状の名古屋城天守閣への眺望が、名古屋に対する誇りや愛着に貢献しているかを 3 段階で選択していただいた。次に、現状の眺望に加えて、3D 都市モデルで示したようにテレビ塔から天守閣の存在感が高まったり、三の丸地区のグランドレベルから天守閣が望めるなどの工夫をすることで、名古屋城に対する誇りや愛着が高まるかを 3 段階で選択していただいた。最後に、前問で名古屋城に対する誇りや愛着が高まる・やや高まると回答した方に、シビックプライドが向上するかを 3 段階で選択していただいた。

現状の天守閣への眺望について、名古屋に対する誇りや愛着に貢献しているかの結果を表 22 に示す。85%以上の方が貢献していると回答しており、そのうち、好きな景観の選択で名古屋城天守閣を選択した人に限ると、約 95%の人が貢献していると感じていた。さらに、そのうち、名古屋城天守閣を実感できる機会が多い・やや多いと思っている人に限ると、約 97%の人が貢献していると感じているという結果であった。これは、名古屋城天守閣が好きな景観で、さらに日常の中で実感できる機会が多い人ほど、天守閣への眺望が、名古屋に対する誇りや愛着に貢献していると感じていることがわかった。

次に、現状の眺望に加えて、名古屋城天守閣への眺望を工夫することで、名古屋城に対する誇りや愛着が高まるかの結果を表 23 に示す。約 80%の方が高まると回答しており、そのうち、好きな景観の選択で名古屋城天守閣を選択した人に限ると、85%以上の方が高まると感じていた。先ほどと同様に名古屋城天守閣が好きな景観である人ほど、天守閣への眺望を工夫することで、名古屋城に対する誇りや愛着が高まると感じていることがわかった。

最後に、名古屋城に対する誇りや愛着が高まることで、シビックプライドが向上するかの結果を表 24 に示す。95%以上の方がシビックプライドが向上すると感じていた。

表 22 現状の名古屋城天守閣への眺望が名古屋の誇りや愛着に貢献しているかの結果

	回答数	割合		回答数	割合		回答数	割合		
貢献している	114	54.8%	うち、天守閣が好きな景観の人	貢献している	90	65.7%	うち、実感できる機会が多い人	貢献している	51	83.6%
やや貢献している	71	34.1%		やや貢献している	40	29.2%		やや貢献している	8	13.1%
貢献していない	23	11.1%		貢献していない	7	5.1%		貢献していない	2	3.3%
回答数計 (n)	208	100.0%		回答数計 (n)	137	100.0%		回答数計 (n)	61	100.0%

※貢献している・やや貢献しているで50%以上のものは塗りつぶし

表 23 名古屋城天守閣への眺望を工夫することで名古屋城に対する誇りや愛着が高まるかの結果

	回答数	割合	うち、天守閣が好きな景観の人		回答数	割合
高まる	92	43.4%		高まる	72	51.8%
やや高まる	77	36.3%		やや高まる	47	33.8%
変わらない	43	20.3%		変わらない	20	14.4%
回答数計 (n)	212	100.0%		回答数計 (n)	139	100.0%

※高まる・やや高まるで50%以上のものは塗りつぶし

表 24 名古屋城に対する誇りや愛着が高まることでシビックプライドが向上するかの結果

	回答数	割合
向上する	81	48.2%
やや向上する	79	47.0%
変わらない	8	4.8%
回答数計 (n)	168	100.0%

※向上する・やや向上するで50%以上のものは塗りつぶし

5. 提案

ここまでの意見収集の結果から、名古屋市内の好まれる景観や新たなスカイラインの形成、名古屋城天守閣への眺望、シビックプライドとの関係について分析した。最後に、名古屋城の眺望に着目した三の丸地区の空間のあり方について提案する。

（１）新たなスカイラインの形成

新たなスカイラインの形成として、今回の意見収集の結果からは、名古屋城天守閣の展望室から開放感があって、統一感も一定程度感じられ、また、テレビ塔スカイデッキからは名古屋城天守閣の存在感がある谷型のスカイラインが好まれることが明らかになった。そして、スカイラインの形状が谷型で同じ場合の建物高さについては、高さが低いほうが好まれる傾向にあったが、今回の建物高さ程度であればあまり大きく印象は変わらないということもわかった。

今後、三の丸地区の再整備として建物を更新していく際には、新たな機能導入に向けて現状の高さ規制を緩和する必要がある、その際に名古屋城眺望景観保全で定めている水平のスカイラインではなく、谷型のスカイラインを基本として検討していくことが必要である。建物高さについては、その建物に何の機能・用途を導入するかによって必要な高さが変わってくるため、眺望・景観の検討と並行して導入機能の視点も考えていく必要がある。さらに、今回の意見収集では、建物高さのみを変数としていたが、建物の形状や配置、デザインなどによっても見え方は大きく変わることから、今後より詳細な検討が必要であるとする。

（２）名古屋城天守閣への眺望

○グランドレベルから名古屋城天守閣への眺望

現状、三の丸地区内のグランドレベルからは、基本的に名古屋城天守閣を見ることができない。今回の意見収集の結果から、多くの方が名古屋城天守閣はよく見える方が良く感じており、さらに、天守閣が眺望できることでシビックプライドの向上に繋がることもわかった。その他にも、天守閣が眺望できることで、写真撮影のスポットになって観光客が増えたり、三の丸地区内で働いているワーカーの方にとって自慢の場所にもなり得る可能性があると考えられる。図 15 に示すように、名古屋城の再建当時（1959（昭和 34）年）は、戦災で樹木が焼失してしまった影響もあるだろうが、名古屋城の正門や本町通から名古屋城天守閣を望むことができた。その後、樹木の高木化により三の丸地区内からは名古屋城天守閣が見えなくなってしまったが、三の丸地区の再整備にあわせて、名古屋城天守閣への眺望を確保することは大変重要である。しかし、第 2 章でも整理したように三の丸地区と名古屋城の地上高はあまり変わらないため、すべての樹木を伐採あるいは低木化して天守閣への眺望を確保することは現実的ではなく、また、貴重な都市の緑を無くしてしまうという観点からも望ましくないと考える。そのため、意見収集の結果でもあったように、名古屋城天守閣の正面に位置し名古屋の歴史軸でもある本町通からや、名古屋城に訪れる多くの観光客が最初に地上に降り立つ名古屋城駅の出入口付近からについては、視点場を特定した上で名古屋城天守閣を見ることができて、ワクワクするような空間にするべきである。



図 15 過去の名古屋城天守閣への眺望

図 16 に示すように、他都市では天守閣の眺望を重視したまちづくりが進められている。姫路市では、姫路駅北駅前広場の再整備（整備期間：平成 23 年度～平成 26 年度）で、姫路城を一望できる施設を整備^{注(8)}したり、姫路城をイメージした憩いの場を整備している。その後、大手前通り再整備事業（事業期間：平成 26 年度～令和元年度）では、「歩いて楽しい、大好きなお城への道」をコンセプトに姫路駅から姫路城までの大手前通りを 3 つのゾーンに分けて整備している。現在は、全国で初めて歩行者利便増進道路（ほこみち）に大手前通りが指定され、大手前通り沿道の企業等で構成される姫路大手前通り街づくり協議会により、さまざまな活動が進められており、城を重視したまちづくりの代表事例と言える。

熊本市では、平成 26 年に桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント基本計画を策定し、目指すべき姿の 1 つとして、お城への眺望を活かしたハレの場・おもてなし空間とし、デザインコンセプトを「熊本城と庭つづき『まちの大広間』』としている。その計画の中にはデザインガイドラインの規制誘導内容として、熊本城が美しく見える眺望（点）を確保することや、熊本城への眺望の背景となる空を大きく確保するための D/H（D：通りの幅員、H：建物高さ）の設定、通り沿いの建物が熊本城への眺望を演出するような壁面デザインとすることなどについて記載されている。この計画をもとに令和元年度から整備が始まり、花畑広場として令和 3 年 11 月に供用開始し、現在は、花畑広場でさまざまなイベントが開催され、多様な方がここに来て熊本城を感じているだろう。三の丸地区においても姫路市、熊本市のように、名古屋城天守閣の眺望を重視したまちづくりの展開を期待したい。

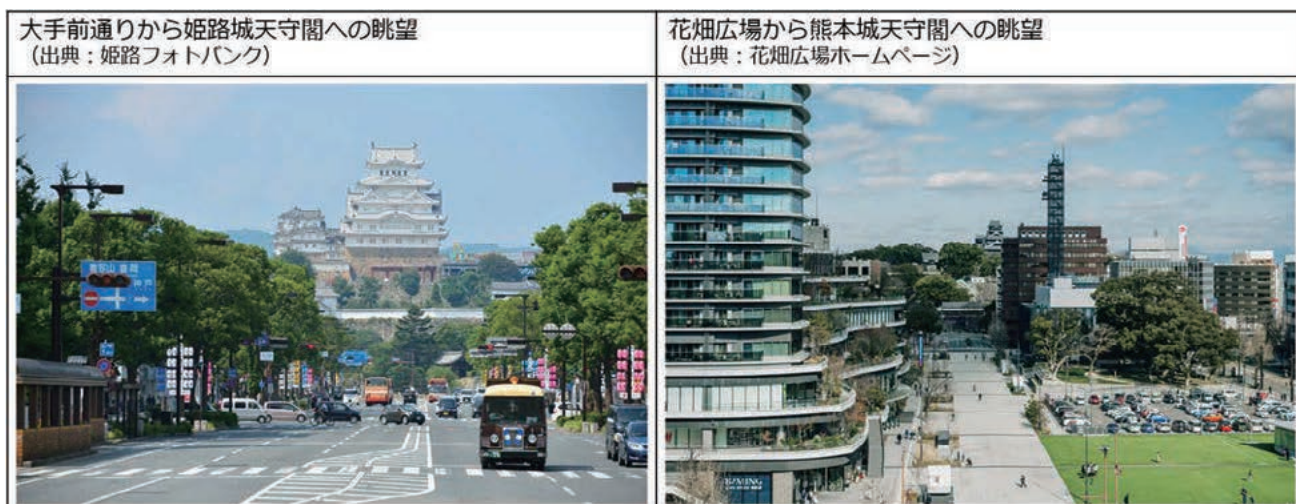


図 16 他都市の天守閣の眺望を重視したまちづくり

○建物上層部等から名古屋城天守閣への眺望

今回の意見収集の結果から、名古屋城への眺望は、多くの方にとって名古屋の誇りや愛着に貢献しているということが明らかになった。今後、新たに建物を整備する際には、建物上層部に名古屋城天守閣が眺望できる空間を整備する必要がある。そうすることで、名古屋城を実感できる機会が増え、名古屋の誇りや愛着、魅力向上に繋がるだろう。

図 17 は、他都市の建物上層部からの眺望の事例である。熊本市役所の 14 階（最上階）には、誰でも利用することができ、平日の夜間、土日祝も開放している展望ロビーがあり、熊本城を一望することができる。また、同じフロアにはレストランも併設されており、熊本城を眺めながら食事を楽しむこともできる。

神戸市の事例は、神戸市役所本庁舎 2 号館の再整備が検討中であり、すでに事業者が決定し、今後、設計、工事が進んでいく予定である。令和 3 年 8 月に策定された神戸市役所本庁舎 2 号館再整備基本計画（改訂版）の景観形成の方針には、新庁舎の高層部からは、神戸港から大阪湾全体を望むウォーターフロント方面の眺望、六甲山系の緑あふれる眺望、神戸の街の夜景等が望めることから、そのような立地特性を活かした機能の導入や空間整備を図る旨の記述がある。決定事業者の提案では、庁舎の高層部に国際的ラグジュアリーホテルを誘致する内容となっている。

三の丸地区においても熊本市や神戸市のように、庁舎を更新していく際には、建物上層部に名古屋城天守閣への眺望を意識して、誰でも立ち寄れるような展望室や、観光客・出張に来たワーカーが楽しめるようなレストラン、風格のある街並みに寄与するようなホテルを導入することで、三の丸地区に付加価値を生み出していくことが重要である。



図 17 他都市の建物上層部からの眺望

名古屋城とテレビ塔の眺望については、今回の意見収集の結果からは、約半数の方が大切な眺望であると感じていた。テレビ塔が完成（1954（昭和 29）年）した当時（図 18）は、まだ栄地区の開発が進んでおらず、テレビ塔スカイデッキから名古屋城天守閣を見た時の背景も建物等があまりなかったため、天守閣が際立って見えていたが、昨今の都市開発の影響から天守閣の存在感が徐々に減ってきていると思われる。この眺望を守るのか、守る場合にはどのように守るのか、それとも三の丸地区の再整備にあわせて守らずに活かすのかは、行政・市民にとって、三の丸地区の再整備のみならず名古屋



図 18 栄地区から名古屋城天守閣への眺望（昭和 40 年代）
（出典：名古屋テレビ塔 50 年の歩み）

のまちづくりにおいて非常に重要である。現状の名古屋市景観計画では、特に規制を設けていないため、仮に名古屋城とテレビ塔の間の地権者が高層建物を建てた場合、この眺望は失われてしまう。名古屋城とテレビ塔の眺望の価値や役割について、行政・市民・地権者・来訪者等と議論しながら、再定義することが求められる。

6. おわりに

本調査研究では、三の丸地区の新たなまちづくりに向けて、名古屋城の眺望に着目した空間のあり方について、3D 都市モデルを活用した意見収集により提案をした。ただ、今回の調査研究で注意されたいのが、意見収集の対象者を関係者に絞ったことである。大まかな意見の傾向については、今回の調査から把握できたと考えられるため、この結果を踏まえ、今後は市民や来訪者などの方々から意見を聞いて、より詳細に分析していく必要がある。

今回は三の丸地区における空間のあり方として、名古屋城の眺望に着目した調査研究を行ったが、三の丸地区の空間を検討するには、その他にも考えるべきことがいくつかある。例えば、三の丸地区には重要文化財である愛知県庁・名古屋市役所の本庁舎があり、それらの建物への眺望も重要である。また、低層部の空間として、現状は均一的な道路の配置・建物の壁面線等であるため、そのようなオープンスペースのあり方の検討も重要であり、多角的に検討を進めていく必要がある。

名古屋城は近世のまちづくりの起源であり、名古屋のまちにとって重要な役割を担っている。名古屋城の記憶・価値をいかに継承していくかが三の丸地区のまちづくりにおいては、非常に重要である。近世のまちづくりを担ってきた名古屋城を重視しながら、近未来的な要素を取り入れ、三の丸地区でしか感じられない価値を提供するようなまちづくりを進めていただきたい。

今回の調査研究が今後の三の丸地区のまちづくりの一助になれば幸いである。

— 謝 辞 —

本調査研究にあたり、終始多大なご指導いただきました中部大学の服部敦教授、名古屋大学の森川高行教授、同大学の恒川和久教授、名古屋国際工科専門職大学の佐藤久美教授、名古屋産業振興公社の小宅一夫氏、岐阜大学の加藤義人客員教授、一般社団法人日本プロジェクト産業協議会中部委員会の山本秀樹氏に深謝致します。

また、大変お忙しい中、意見収集にご協力いただきました皆様、本研究へのご助言いただきました名古屋商工会議所、中部経済連合会、中部地方整備局、愛知県、名古屋市、UR 都市機構中部支社の皆様、並びに 3D 都市モデルのデータ作成・提供をしていただきました株式会社日建設計に心より御礼申し上げます。

【補注】

- (1) 江戸時代に流行した俗謡の一節で、名古屋は城のおかげで繁栄しているという意味である。
- (2) 2020 年度にスタートした国土交通省の新しいプロジェクトである。PLATEAU(プラトー)において、都市活動のプラットフォームデータとして 3D 都市モデルを整備し、様々な領域でユースケースを開発している。さらに、誰もが自由に都市のデータを引き出せるよう、3D 都市モデルをオープンデータとして提供している。
- (3) 中部電力 MIRAI TOWER の地上 90m に位置する屋内展望台である。
- (4) 国土地理院の地理院地図で標高を確認したところ、名古屋城天守閣と三の丸地区との標高差は 3m 程度である。一方、大阪城天守閣と大阪城の北東に位置する大阪ビジネスパークとの標高差は 30m 程度ある。これは名古屋城は平城で、大阪城は平山城であるためである。平城とは、平地に築かれた城のことをいう。平城として、名古屋城、松本城などがある。山城とは、陰阻な山を利用して築かれた城のことをいう。山城として、岐阜城や竹田城などがある。平山城とは、平野の中にある山や丘陵等に築城された城のことをいう。平山城として、姫路城や熊本城、大阪城などがある。
- (5) 愛知県新体育館が 2025 年の夏に名城公園内に完成する予定である。愛知県現体育館の跡地を含む二之丸については、特別史跡名古屋城保存活用計画（平成 30 年策定）では、「二之丸庭園の保存整備を中心とし、広がりのある空間を活かしながら名勝及び特別史跡にふさわしい整備を行う」と記述されている。
- (6) 金シャチ横丁第二期整備 博物館ゾーン整備基本構想検討懇談会では、水資源機構中部支社および名古屋農林総合庁舎 1 号館・2 号館の建物があるエリアを名古屋城博物館（仮称）等の整備候補区域として検討している。
- (7) 名古屋まちなみデザインセレクションは、市民に魅力ある景観づくりに関心をもってもらい、名古屋のまちへの愛着と誇りを育むことを目的とした事業である。その中でも今回は、市民からお気に入りの風景を募集し、市民投票により 20 の風景が選定された「まちなみデザイン 20 選」を参考とした。
- (8) 姫路城が一望できるキャッスルビューを JR 姫路駅中央コンコースに建設したり、在来線のホームから姫路城が望めるように配慮されている。

【参考文献】

- 1) 「名古屋三の丸ルネサンス期成会の設立及び、三の丸地区再整備への提言について」名古屋三の丸ルネサンス期成会（2021 年 1 月）
- 2) 「東京一極集中の是正に向けた地域の機能強化と魅力向上に関する提言 ～中部圏と中心都市名古屋の持続的発展に向けて～」名古屋商工会議所、一般社団法人中部経済連合会、（2021 年 1 月）